日本の文化政策とミュージアムの未来

プロジェクト・リーダー：木下直之（東京大学）

日本で最初の公立近代美術館・神奈川県立近代美術館

◆ 趣旨と目的

明治以来の近代国家が、とりわけ敗戦から立ち直った戦後社会が、営々と築き上げてきた文化環境を見直し、再生させ、21 世紀の日本に適応させることが求められている。本プロジェクト研究は、ミュージアムに着目し、政策・行政のレベルと実践のレベルというふたつの異なる観点から現状を分析し、問題点を明らかにし、国や地方自治体ばかりでなく、広く市民社会に対しても、問題解決に向けた指針を提示することを目標とする。

◆ 成果と展望

「都市政策の課題と芸術文化の役割に関する研究」においては、諸外国の文化政策との比較に重心を置いた。アジア･アフリカの調査を通し、従来の欧米型ミュージアムを相対化する手掛かりを得た。またドイツの芸術家会館ベタニエンの活動に着目し、既存のミュージアムを超えた文化施設において芸術家と市民をつなぐ可能性を追求した。「ミュージアムの活用と未来－鑑賞行動の脱領域的研究」においては、大原美術館と科学技術館をフィールドに、それぞれ性格を異にするミュージアムの利用者・鑑賞者の行動に注目することにより、既存のミュージアムの活動を検証し、課題を整理し、今後の展望を示した。これらふたつの研究の成果をもって、ミュージアムを重視してきた文化政策・行政の根幹を再考する。

◆ 研究グループ・研究体制

日本の文化政策とミュージアムの未来
プロジェクト・リーダー：木下直之（東京大学）

- 「都市政策の課題と芸術文化の役割に関する研究」グループ
  - *文化政策、特に芸術文化政策について、人文科学･社会科学両面から捉え返した上で、文化政策研究の今後の発展可能性を探る
  - 東京大学グループ　グループ長　小林真理（東京大学）
  - 国立民族学博物館グループ　サブグループ長　川口幸也（国立民族学博物館）
- 「ミュージアムの活用と未来－鑑賞行動の脱領域的研究」グループ
  - *ミュージアムの利用を活性化するための鑑賞支援のあり方を多角的に検証する
  - 美術系ミュージアムにおける調査研究グループ　グループ長　五十殿利治（筑波大学）
  - 科学系ミュージアムにおける調査研究グループ　サブグループ長　山崎敬一（埼玉大学）

▼「都市政策の課題と芸術文化の役割に関する研究」
http://www.l.u-tokyo.ac.jp/CulturalPolicy/index.html

▼「ミュージアムの活用と未来－鑑賞行動の脱領域的研究」
http://www.jinsha.esys.tsukuba.ac.jp/jinsha/

▲アンケート集計用に、バーコードホルダーを受付で配布

▲科学技術館における、ロボットによる遠隔ガイド実験

▲文化政策史研究会による公開勉強会

▲国際シンポジウム「地域主権時代の文化政策～多様性を保障するドイツの文化政策から考える」

▲フォーラム　「廃校の可能性～芸術創造の拠点として」